

新聞から情報を収集・取捨選択し、自らの課題を発信する 学習のあり方について

～ 普段、新聞を読まない生徒を、新聞にどのように惹きつけるか ～

長野県望月高等学校 木 内 清

キーワード ＜新聞の存在 主体的学び 情報の取捨選択 発表・発信 自分再発見＞

1. 実践の概要

N I E実践校として2年目の活動目標は、新聞を普段読んでいない、読む機会がない生徒が、日常的に新聞を身近に置き、如何に自分の生き方の課題として、読み解くかをテーマにした。

「新聞が読める高校生は学力が高い」という仮説を立てるならば、学力を身に付けさせるということは「新聞をはじめメディアの情報を取り込みながら読みこなし、必要な情報を選び、自分の意見や考えをはっきり述べることができる生徒の育成」と置き換えられるとも考えられる。

新聞『で』学ぶか、「新聞『を』学ぶか、と問われたら、指導には考え方の差があるが、両方が求められると思う。N I Eは、生徒の学習実態に合わせて取り組まれるべきである。特に高等学校では、校内はもとより、校種、地域性などにおいて学力差などがあるため、興味関心の方向が、多方面にわたる。帰結としては、I T時代に新聞というメディアがなぜ今求められるのか、メディアリテラシーが必要かを考えさせることが大切になっていると思う。

多くの高校生の情報収集や発信の実態は、携帯電話のパーソナルコミュニケーションに取り囲まれ、視野の狭い情報を取り込んで楽しんでいる傾向がある。そこから発展させ、自分にとって必要な情報や社会参加へのステップとして情報の取り込み方や取捨選択の方法について、新聞の報道特性を学びながら参加型学習の訓練とはどうあるべきかを試みた。

今年度は、昨年度と実践教科はほぼ同じであるが、昨年度の成果と課題をふまえて継続的におこなった。以下は主な内容である。

- (1) 「現代社会」(1年生必修科目)で、生徒の学習单元(経済分野)と家族間の人間関係をつなげたいという考えから、ファミリーフォーカスを実践した。ワークシートをもとに新聞を媒介にした学習展開がどのように可能かを模索してみた。
- (2) 「時事問題」(3年生選択科目)で、普段、新聞になかなか接しない、触れようとしない生徒に、新聞がメディアの中でどのような利便性があり、かつ優れた機能や特性があるかを学ばせた。日常的に溢れている情報の取捨選択に、多様な内容と論点をもつ新聞に触れる機会を多くし、じっくりと考えることをとおして、自分の考えをどのようにまとめて、情報発信できるか体験的におこなった。
- (3) 「家庭科」「保健体育科」「国語科」におけN I Eの授業のあり方を考えた。日常的

(4) 総合的な学習の時間（以下、「総合」と略す。02年度は試行段階）およびLHR
総合で、国際理解教育をテーマにしたところでは、記事から途上国でのサッカー
ボール生産の児童労働の実態を学び、自分に何ができるか考える契機になっていた。
LHRでは、進路学習の際、新聞を活用しワークシートに記入させながらこれからの
生き方や職業観を考えさせた。自己理解の促進に大変役立った。

(1) 教職員への理解と新聞の置き場・整理方法

教職員にとっては図書館に配達されていない新聞も読めるということから、多様な視点に基づく新聞の論調の違いに気づくなど好評である。授業を補完する話題源として意識せずとも重要な役割を果たしているといえる。

新聞は読まなければ、ただの紙。読まれれば知の宝庫であることは言うまでもない。生徒の活字離れは言うまでもないが、保護者の様子も少なからず然りの状況のようである。視覚によるTVの圧倒的影響力との闘いとも言える。新聞は、深慮性・専門性・詳細な報道力によって教育的な有効価値を見いだせるメディアであると、理解している。

[illegible]

— 52 —

[illegible]

事 故
 〔望月町〕二十七日午
 後一時半すぎ、北佐久郡
 望月町立昭和の国道412
 号で、店舗駐車場に折所
 したトラックと、
 対向車線に直進してきた
 同町科科町の高校生三男
 男児ハのバイクが衝突
 した。高校生は右腕の骨を
 折るけがが。

事 故
 〔佐久市〕二十七日午
 前八時四十分すぎ、佐久
 市市沢の国道255号で、
 乗用車と、四角つて来て
 り右折しようとするバイ
 クの高校生三男は同定
 クが衝突、高校生は右足
 指などの大けがが。

上田でひき逃げ
二輪の高二重傷
六日午後九時すぎ、
上田小南の国道43
号で、同市神城、高校三
年生の**さくら**さんのバイク
に、追い越けぬため
セーターを引を感ぜて
対向してきた軽トラック
が暴走した。**さくら**さんは
右手骨折の重傷。軽トラ
は右折の途中、軽トラ
本體の前面に走りつたた
め、上田署に届けられ
て、事故設備として行
方不明になっている。

男はた、軽トラック
は白の白で、荷台に
緑色シートをかぶせて
いたという。

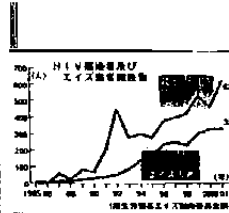
＜体＞◆原付は自転車よりも乗用車に近いもの
◆少しの気のゆるみが事故につながる

①交通法厳守する

- ◆「止まれ」の左折、点滅の赤信号(役場西側交差点)で、一旦停止してですか？
◆制動速度は守っていますか？
- ②対車の事故に注意
- ◆店へ出入りの車に注意、車の死角に入っていることもある
◆前を走る車との車間距離は十分かな？狭い道では特に注意
◆交通事故の多くは交差点、ミラーや耳目フルに活用
- ③悪路や悪条件での運転に注意する
- ◆見通しの悪いカーブでヒヤッとしたことはありませんか？
◆小雨や風の強いとき、下校時の夕陽で意ない経験をしたことはありませんか？悪条件では、相手も自分(が)が見えにくくなっています
◆賑いだけで、後ろからの車がなくてよかったんではありませんか？路面のデコボコや雨のあとの小石に注意、鉄板・マンホール・ラインの上も滑りやすい
- ③自分を守るのはまず自分
- ◆ヘルメットのおごひもを結ばなかったり、ヘルメットを首の後ろに落としたりしたことは？(安全面を考えるとフルフェイスのヘルメットが望ましい)
◆服裾や履き物はしっかりとっていますか？

⑤ 考案) 日本のヤングが欧米人の習慣の様に、人前で「抱き合う」光景を見ることがある。
日本では、恋愛や性の表現は人前では、あまり表に出さないという日本の習慣があります。そうしていることをしるり学習してきたお父さんとしては「日本という国は、なんとおおらかな国になったのか」という思いと、「何でもかんでも欧米のものな国はなくなってよい」という思いがある。
世阿弥の「観つるば花」という言葉があるが、性や愛の表現も、人間にとってはいまオープンでない方がいい。大勢に見えたいなって露出狂なんじゃないかな？
一線の日本人には日本的「恥の文化」はなくなってしまうったのかも知れないが、

2002年(平成14年)7月3日(水曜日) $(\frac{5}{7}, \frac{2}{7})$ 2002年(平成14年)7月16日 火曜日 第16回

[illegible]

20代以下が $\frac{1}{3}$ 超

問われる
大人の責任

[illegible]

「性の学習」は、結局は一人ひとりがどう生きるかということなんだ。若くエネルギーがあるみんなの今は、恋愛→性という公式がありそうだが、「純愛」と異性との友情があってもいい。人間は「好き」「嫌い」の2分法だけでなく、割り切れないことも多い。学校の学習もアルバイト経験も学習だけれど、自分を大切にして、相手も大事にすることも学んで欲しいと思う。

【性教育だより（青りんご） 一部抜粋】

い説得が不可欠である。生徒と保護者の反応を直接感じ取れないが、通信等の情報や話題が家庭では着実に増えているようだ。

3. 具体的な実践の内容（事例）

(1) 「現代社会」（1 学年 3 単位 3 クラス）

① 単元「地球環境の保全」の問題に関わり、地域の環境問題を扱った記事から、町役場の担当者との学習会への発展させた。

（ねらい）環境破壊、地球温暖化などの問題は知識理解になるが、地域や身近なところに具体的な問題がないか注意深く調べたり考えたりし、どのような解決方法があるか、町役場の担当者から学ぶ。

・「望月町内へゴミの不法投棄」（信毎 8/14）

↓ * 生徒の問題提起と発案

・役場担当者との相談（生活環境課担当 2 名）

↓

・役場会議室での学習会（ワークシートの準備）

* 資料 1

【役場での学習会】



（評価）十分なディスカッションはできなかったが、家庭の雑排水の問題や分別ゴミの大切さ、不法投棄問題に関わることが学べた。生徒は身近な環境汚染等について、まとめと試験で確認することができた。

② 家族で読み合う新聞（宿題として）

（ねらい）意図は、社会の出来事に関心をもち、自分の意見・考えを書く。それを家族と共有し合い、家族の意見と考え合わせることにある。家族間のコミュニケーションの向上、改善にも役立てる。経済的には厳しい時代であるが、新聞の記事を親の世代と自分達の世代がどう違うのか、新聞を批判的に見ることも学習の意図であると伝えた。

・第 1 回、2 回 … 題材（ジャンル）は概ね自由 7 月と 12 月実施

* 保護者へ協力依頼の文書

・第 3 回 … 経済分野（5 つの記事を指定。ワークシートに自分の意見を考え記述する）

意図は、教科書や資料の内容を補完することができ、今日的な問題に具体的なアプローチが可能になる。 1 月実施

（評価）家族とのコミュニケーションが、不十分な生徒が多いことに気づく。本校生の特色かもしれないが、保護者と少し距離を置きたい高校生期の発達段階の困難さがあるように思う。宿題について、「親と話し合っていない」者も少なからずいた。意図を受けとめてくれた親子が少ないことは、今後の課題。

* 資料 2（生徒・保護者記述例）

③ 各考查での出題

・授業時に日常的に新聞記事を解説する。そのうえで中間考查、期末考查では主に新聞の一面から記事を取り上げ、出題する。試験前に 20 問を提示しており各自が調べておく。

④ 新聞記者の講演 03 年 1 月

* 別紙写真 1

学年 LHR と連動させ、朝日新聞記者に来校してもらい、取材—編集—発行までの内容について具体例をもとに話を聞いた。取材記事が活字になるまでの記者

の大変さも理解し、行動力や、やりがい生き甲斐を見いだしている職業観の一端にも触れることができた。生徒の感想アンケートには、「新聞記者のことはよく知らなかったが、苦勞されて記事を書いている。今後新聞を積極的に読みたい」という声が目立った。記者の「7つ道具」や記事の背景を伺ったり、デッドラインまでの多忙さを知り、臨場感あふれる講演になった。

(2)「時事問題」(学校設定科目 3年選択 2単位 生徒8名、オープン授業参加者2名)

02年度の主なテーマ学習	生徒の学習活動と様子(ワークシートを使用)
①新聞とは何か ・導入として新聞の特性を理解する (各紙のコラムを随時取り上げて要約、解説、感想を記入)	・各紙の高校生や若者向け記事の要約を行う。漢字や意味の調べ学習をして意見感想の発表を行った。 ・各紙のキャプションや論調主張の違い、続報の有無などにも言及する。写真記事や広告の手法に着目することを指摘。 ＊扱った記事の例 「イッキのみ防止キャンペーン10年目の春」(朝日4/10) 「日頃言われる親の言葉は・・・」(信毎1/8) 「父の背中と母の太っ腹」(朝日4/13) 「生徒の懲戒処分提示」(信毎4/18)
②国際問題(瀋陽事件)	・事実経過、日本の外交政策、人権問題などを学び、発表。 信毎・朝日の各紙の論点の相違、報道姿勢などについて確認
③生きることにについて ・「あるアメリカ人障害者の生き方」 ・「ティーンズメール」(朝日)	・人としての生き方、同世代の悩みを客観的に考える機会をもち、自己のあり方を探る。相互の意見交換も行った。 「両足を失った男が拳2つで米大陸横断した」(朝日01・4/22) 「メールの悩み相談にあなたなら、どう答えるか」
④沖縄問題を自分の問題として考えよう ・沖縄返還30周年にちなんで (沖縄修学旅行を思い出そう!)	・戦争と平和の問題について、修学旅行に行った沖縄のことを思いだし、現在の日本及び国際情勢を考えさせた。 「ののちゃんの自由研究」(朝日NIEスクール) -沖縄 何があったの 104歳オジの歩み-
⑤W杯サッカーのもう一つの側面(文化・社会現象など)	・日韓共催のW杯サッカーはお祭りの反面、様々な国際的な問題や社会現象をみせた。様々な背景を新聞から学んだ。 「何物語る若者熱狂」「社説」(朝日・信毎) 「日本戦?まゝ、引き分けだな」(トルコ地震被災地仮設住宅村) 「苦しみなきクールな日本 地獄を味わった熱い韓国」(沢木耕太郎) 「髪型だけでもベッカム 輸入ビール・宅配ピザ・はとバス…W杯効果」 「日本人の印象一新 W杯 世界の記者が素顔紹介」「天声人語」
⑥フットラングージから平和を考える	・イスラエル軍当局が公表した赤ちゃんの写真に題名を付けることをとおして、戦争や平和の意味を考えさせた。(題名付ける1枚・記事付き1枚) ＊資料3
⑦地域の未来(町村合併) ・新聞が身近なことを伝え、明日の自	・平成の大合併は、高校生にとっても気になるところ。今後居住地域が行政的にどのように変化するか考えさ

・分のことを考える契機になることを学ぶ	せた。 導入…望月町での「たそがれ清兵衛」ロケに関する新聞（信毎5/1～3） 「どうなる合併 120市町村の選択」（読売5/6） 「ののちゃんの自由研究 -合併について-」（朝日）
⑧人に紹介したい記事 ・なぜこの記事を紹介したいか考える	・どのような新聞を読み考えるかをテーマ学習に繋げた。 ＊プレゼンテーションのあり方について練習（相互評価）
⑨投書から学ぶ	・高校生の進路についての内容から考えさせた。→ 投書へ
⑩テーマ学習 ＊詳細は別記	・各人のテーマの絞り込み、まとめ、発表会

【時事問題 テーマ学習（8名）】

◎生徒との話し合いの中で、以下の8テーマについて絞り込み、知りたいことを調べ、まとめ、発表することが決定した。その次は、誰がどういう内容で発表するかを、みんなで相談の上決めた。新聞のスクラップをおこない、自分のテーマに従って意見をまとめ自分の言葉で考えながら発表する経験は、今までの授業ではなかったという。最後の時間の発表会は、単に新聞記事の説明ではなく、自分の考えを表現する場であり、自分再発見につながる取り組みであった。発表者に対する質問や意見も出され、生徒も教師も充実し楽しめた時間となった。

＊別紙写真2

- A 国際問題 …… 途上国の実際や支援
- B 人権・差別（国内外の問題）
- C 日本の経済状況（今日の不況）
- D 戦争と平和 …… イラクの問題、他の紛争やテロ、北朝鮮の拉致問題など
- E 若者の文化、ファッション
- F 生活環境（日常的な環境）
- G 労働とストレス（将来の働く環境と人間らしい生活）
- H 人の生き方、やりがい、趣味に関して

（プレゼンテーション・生徒の相互評価の工夫）

＊資料4

- ・用意するもの → 模造紙、マジック
- ・創意工夫 → レイアウト、イラスト、見やすい文字、写真の取り込み
- ・相互評価（4観点）→ [見やすさ・聞きやすさ・論理の明確さ・意見に共感するか]

(3) 家庭科・保健体育・国語におけるNIEの実践例（各教科担当者の論述による）

①家庭科（2年「家庭一般」保育分野での扱い）

＊資料5

授業の導入で、「こんな新聞記事があったけど読みましたか？」と問いかけ、内容について教科書に記述されていることと重ね合わせながら、記事を読み合わせ、現実を説明した。

ちょうど性病について学習しているところを扱ったので、生徒の反応は、驚きと

もショックとも言える反応だった。生徒は男女とも珍しく声を挙げたほどだった。その気持ちの背景には、“あまりの患者の多さに”病院へ行こうと考えた生徒もいたことに尽きる。

授業では、①クラミジアの現況までの推移、②感染原因、③感染範囲、④社会的背景などにわたって、講義と質問を取り入れた対話形式の方法で行った。

◎評価

保育の単元は、性教育分野にもつながる内容である子どもの育て方、成長の学習は、人の生き方や感性を育てることになる。直接言いにくかったり、説明しにくかったりする内容を、活字を通すと説得力がある。データや生徒のことが記述されているだけに、授業の導入では、大いに生徒が関心をもった。生徒の感想は直接的な反応だったが、安易な性交渉目的でなく将来に渡って自分の身体や心を大切にしようという声が挙がっていた。

自分を大切にすることが人を愛することにもつながっていくと話した生徒がいた。記事が契機となり、生徒の感性を高め、ちょっぴり愛のあり方を確認させたかもしれない。

②保健体育（2年「保健」男女の性についての分野での扱い）

*資料6

特に身近な県内の記事を授業の導入部分で紹介した。生徒の反応は温度差はあるが異口同音に、驚嘆の声が挙がった。ともすると高校の保健での性の学習は、男女の生物学的相違を学ぶ傾向があるが、今回の数字が物語る記事内容は、性を他人事とは言えない雰囲気させる効果があった。自分の生き方や考え方に大きな影響力を持たせることができた。

◎評価

生徒が抱く興味や関心を、教師が教材研究の大切な要素として考えていく場合、新聞のもつ役割は大きい。また、見出しの付け方が素晴らしく、教師の指導目標に最適と思う。

③国語（1年「現代文」……新聞の教材化）

高校生があまり活字を好まない、読まない現実がある。それを少しでも打開したい。現代文では、様々な文章を読むことで自分の感性を高め、表現することの楽しさ、面白さを学ぶ。その意味で新聞は教材の宝庫である。今回、投書文、外電記事を取り上げた。教科書の文章と違って新聞特有の記述方法が、生徒にとっては分かりやすく読みやすいと評判だった。この他、生徒には同世代の若者について記述されている内容や、親の世代以上である中高年が書いた投書などを教材化している。他校の生徒や親以外の世間の大人がどんなことを考えて生きているか、開かれた扉になっている。

◎評価

記事は教科書の文章より、「今、世の中で関心が持たれていること」の内容を扱っている。そのため、自分も勉強しなくてはならない、という学習の動機付けがし易い。一方で、コラムなどのうち、教員が読んでも論旨が明確につかめないものがある。かつて「コラムは明解な文章の手本だ」と教えられたが、その期待に応える努力を望んでいる。

(4) 総合的な学習の時間（国際理解）とLHR（進路学習）の扱い

①総合的な学習の時間＝試行（各学年2単位）

後期の総合は、学年の枠をはずして学ぶ。国際理解の分野では、「ユニセフ教材」を活用し、途上国支援に何ができるかをテーマに取り組んだ。

導入として児童労働を取り上げた。2002W杯サッカーが終了して4か月後、「サッカーボール」に注目させて、ボールはどこで作られているかと問い、新聞の記事を紹介した。サッカーの隆盛の影に途上国の児童労働がある現実を生徒達は新聞で知った。新聞には、途上国が載ることがあり、それが世界の現実を考えることになると、ヒントを与えた。

ラオスに学校を作った高知商業高校の取り組みも新聞で知った生徒がいた。何かできることがあるのではないかと。「途上国を考える、理解する … できることから支援したい」こんな願いを後期の総合学習で「国際理解」を選択した生徒は抱くようになった。ちまたにあふれている欧米の記事ではなく途上国の記事に興味をもち、さらには児童労働の記事やストリートチルドレンに関心を持ち、ユニセフの活動の記事などを探すようになった。

その雰囲気の中で、「自分はケータイ電話代のためにアルバイトをしているが、途上国の子どもは家族のために働いている。学校へ行きたいという言葉に驚いた。自分をふり返るきっかけになった」という生徒もいた。さらに学習を発展させ、「貿易ゲーム」やロールプレイをおこない、ユニセフの資料を活用しながら、自分の住む地域と途上国の子どもの学校生活や暮らしに考えをめぐらせ、豊かさと貧困、幸福観や人間観などを考えるきっかけになった。

* 資料7

※詳細は「ユニセフで学ぶ『総合的な学習の時間』P28～29」（日本ユニセフ協会2003.4月刊）参照

◎評価

総合的な学習でのNIEの取り組みは、生徒の学ぶ意欲を引き出すには最適である。新聞が調べ学習の代表的なものだけに、手軽に手に取りそこから多角度に発展させやすいメディアである。テーマ学習へのアプローチに同類項、または違う視点のものをスクラップさせ、考えさせることもおこなった。新聞は総合学習をおこなう際の「情報の宝庫」ということを生徒に体験させて活用をはかることが必要である。ただ、情報にはフィルターが掛かっている場合や意図的なこともあることを理解し、情報をうのみにせず、批判的に見ることも大切ということ押さえておくことが必要である。

②LHR

進路指導に関わる内容をNIEで取り組んだ。高校生の進路学習は、「多様な職業調べ」「適性検査」等多岐にわたる学びがあるが、1年生では、キャリアガイダンスの初歩として、“どんな人になりたいか”を学習目標に設定。その点、「親父の背中」や「ひと欄」による生き生きしている親の姿や、高校生の紹介などを、指導の導入に使用して生徒の職業観を身近に引き寄せた。生徒も教師も楽しんで学ぶことができた。

* 資料8

※詳細は「進路ジャーナル2003.3月号P36～39」（実務教育出版）参照

◎評価

進路指導について、教材化を担任独自におこなうことはなかなかできにくい。多様な希望があり、実現困難な夢だけを与えることも厳しさだけを植え付けるだけでも教育効果は薄い。身近なちょっと努力すれば可能性があることを指導者が如何に見つけられるかが勝負である。その意味で導入が指導の分岐点になる。今回、NIEを指導のヤマに活用し、進路指導関係会社が開発した進路自己診断検査を組み込んだことにより、各自が考えている“将来になりたい自分”が少しだけ見えてきた。特に、各新聞社の親の職業を客観視する欄や様々な職業の紹介の記事などは、職業が身近に考えられるし、ひたむきに生きている方々の各々の職業の魅力をたっぷりと教えてくれるので大変助かっている。「私もとび職になりたい」という女子生徒の声も出た。

4. 実践の感想と今後の課題

【感想】

生徒にとって新聞が身近な存在になった。「時事問題」は主に新聞を通して情報の収集・選択のあり方を学んだ。新聞を読んだことが少なかった生徒がこの講座を契機に論文を書くことを厭わなくなり、進路を大学に絞り、AO入試で見事合格した。専門学校、就職が決まった生徒が、面接で印象に残った授業を聞かれ、時事問題を挙げたと聞き、快哉の思いであった。

【課題】

メディアリテラシーのあり方は、ジャーナリズムとどう付き合うかと同義であろう。高校生がメディアを鵜呑みにせず、学力の深化と幅を身につけることができるか、大きな課題である。高校生が小・中学生より新聞を読まない傾向があると、聞いた。反面、正しい情報を求め自分の指針を探す時期である。だからこそ新聞が有効なものであることを今後も実践し確かめたい。

【資料1】 信毎 03/8/14「望月町不法投棄」

〔写真1〕 新聞記者の講演と生徒の様子（LHR）

望月町の山林 北佐々郡望月町協和の山林に、廃タイヤやオイル缶などが大量に不法投棄されている。不法投棄された場所は、国道から五十メートルほど離れた斜面で、隣の田舎集落が大量に不法投棄されている。	望月町の山林に、廃タイヤやオイル缶などが大量に不法投棄されている。不法投棄された場所は、国道から五十メートルほど離れた斜面で、隣の田舎集落が大量に不法投棄されている。
---	---



【資料2】1学年「現代社会」 生徒、保護者の記述例（1月）

（「成長率回復06年度以降」＜信毎1／21＞
「倒産、バブル後最多」＜読売1／21＞

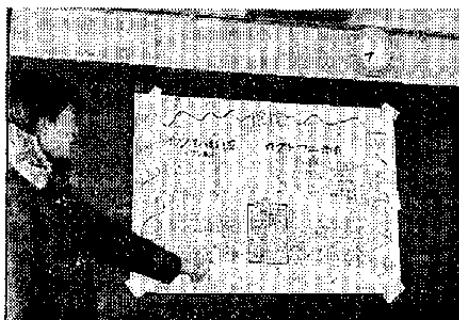
（生徒Tさん）

- ・私は倒産といってもあまり多くはないと思っていました。この記事を読んで倒産の件数は前年より増えたことで、戦後2番目ということが分かった。本当に大変な時代ということだ。

（Tさんの保護者）

- ・大きな企業の倒産が目立つこの頃、銀行の貸し渋りなど、どこか歯車が狂っている感じがする。私が勤めているスーパーでも、以前より客の財布の紐がゆるくない。倒産やリストラなどよそのことではない。倒産や負債総額の多さも気が遠くなるほどだ。

【写真2】3学「時事問題」生徒の準備と発表



【資料3】「この写真の題名は？」

イスラエル軍当局が27日公表した自爆テロリスト姿にふんじたパレスチナ人の赤ちゃんのロイター



この写真に題名を付けてください。

【資料4】「時事問題」の感想・意見（最終の授業評価）抜粋

- ・はじめは難しく大変だと思った。やっていくうちに分かり、楽しくできました。
- ・時事問題を通して思ったのことは、新聞を読む機会を与えてくれたので興味をもつことができたのでよかった。
- ・初めは字ばかり。でも少しずつ自分の考えたことや思ったことを表現できるようになりました。この授業は進学にあたりすごく要な授業ということに気がつきました。
- ・この授業をするまでは新聞の中味を見ようとしなかったが、新聞を読むと、自分が気になることが一杯あることが分かった。

【資料5】家庭科の教材

10代のクラミジア最多

10月の県内混合感染も拡大

県内で性感染症（STD）の検査を受けた10代の若者たち。その中でクラミジア（C）の感染が最も多く、10月の県内混合感染も拡大している。

県内では、性感染症（STD）の検査を受けた10代の若者たち。その中でクラミジア（C）の感染が最も多く、10月の県内混合感染も拡大している。

県内では、性感染症（STD）の検査を受けた10代の若者たち。その中でクラミジア（C）の感染が最も多く、10月の県内混合感染も拡大している。

県内では、性感染症（STD）の検査を受けた10代の若者たち。その中でクラミジア（C）の感染が最も多く、10月の県内混合感染も拡大している。

【資料6】保健体育の教材

「10代の中絶」過去最多に

864件 5年連続更新

昨年の県内全体の12.7%占める

県内では、10代の中絶が過去最多に達した。昨年の県内全体の12.7%を占める。

県内では、10代の中絶が過去最多に達した。昨年の県内全体の12.7%を占める。

県内では、10代の中絶が過去最多に達した。昨年の県内全体の12.7%を占める。

県内では、10代の中絶が過去最多に達した。昨年の県内全体の12.7%を占める。

【資料7】ユニセフに学ぶ「総合的な学習の時間」（日本ユニセフ協会発行の活用ガイド）（転載承認済み）

ユニセフに学ぶ「総合的な学習の時間」

目的：①「開発途上国」の現状について、イメージと認識を、調査・観察・体験により理解し、②「開発途上国」について、何ができるかを考え、そして、地域で活動することの意義を学ぶ。

自分の住む地域と途上国の子どもの学校生活や暮らしについて知る

①アイスブレイキング

②「開発途上国」の現状について、イメージと認識を、調査・観察・体験により理解し、②「開発途上国」について、何ができるかを考え、そして、地域で活動することの意義を学ぶ。

③「開発途上国」の現状について、イメージと認識を、調査・観察・体験により理解し、②「開発途上国」について、何ができるかを考え、そして、地域で活動することの意義を学ぶ。

ユニセフに学ぶ「総合的な学習の時間」

目的：①「開発途上国」の現状について、イメージと認識を、調査・観察・体験により理解し、②「開発途上国」について、何ができるかを考え、そして、地域で活動することの意義を学ぶ。

自分の住む地域と途上国の子どもの学校生活や暮らしについて知る

①アイスブレイキング

②「開発途上国」の現状について、イメージと認識を、調査・観察・体験により理解し、②「開発途上国」について、何ができるかを考え、そして、地域で活動することの意義を学ぶ。

③「開発途上国」の現状について、イメージと認識を、調査・観察・体験により理解し、②「開発途上国」について、何ができるかを考え、そして、地域で活動することの意義を学ぶ。

10/27 朝日(教育欄) ▶

◀ 11/4 朝日 (国際)

[illegible]